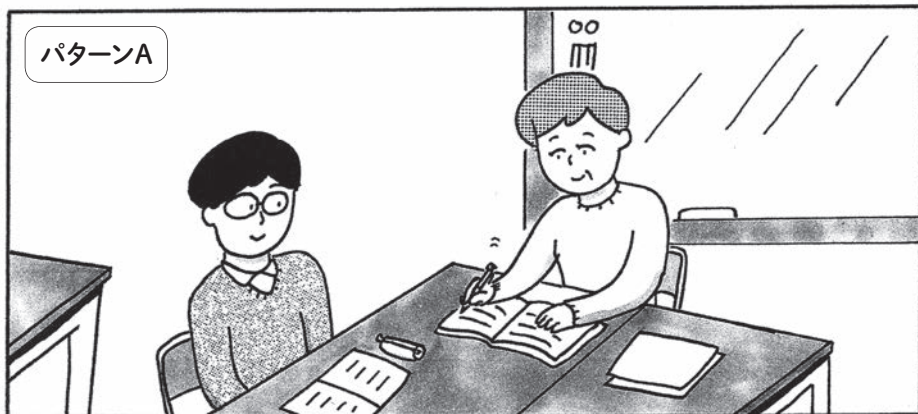


第2話

私に興味はありますか？





パターンB



「住みます」のテ形は
わかりますか？



今、友人と一緒に
住み、
住んでいます



「住んでいます」
です



住んでいます





第②話 私に興味はありますか？

タスク1 パターンAとパターンBを読み比べて、何が違うか考えましょう。

タスク2 パターンAの先生は、学習者の活用ミス（住みてます）を修正しません。
どういう意図があると思いますか。

タスク3 パターンAもパターンBも、学習者は「りんごです」
「寒いです」「涼しいです」と答えています。
自分が学習者だったら、どちらの先生がいいと思いますか。

第②話 について

このお話には、内容重視の先生（パターンA）と文法や形式重視の先生（パターンB）の二人が出てきます。こういった先生の方針の違いに気づいてもらうのが、最初の質問の意図です。続いて、文法ミスを修正しないことに関して、自分の意見を確認してもらおうお題が、2番目の質問です。文法ミスの修正が大変重要だと考える人もいれば、やりとりの進行を邪魔しないことが大事だと考える人もいるでしょう。3番目は、学習者の立場になってみて、どちらの先生が好きか考えてもらおうお題です。自分が学習者になったとしたら、おしゃべりを邪魔してでも文法を直してくる先生と、文法は直さないけれど、意味のあるやりとりで上手におしゃべりを引き出してくれる先生、どっちがいいでしょうか。

ここでいう意味のあるやりとりというのは、パターンAの先生が行っているものです。コミュニケーションの基本になるのは、情報の差（インフォメーションギャップと言います）を利用するもので、自分が知らないこと（情報が

ないもの）を質問するものなのです。こういう質問のことをRQ（Referential Questions「指示質問」：教師が答えを知らない質問）と言います。パターンAの先生は、一貫してこれを行っています。一方、パターンBの先生は、すべて自分が知っていることを相手に確認するために質問しています。こういう質問のことをDQ（Display Questions「提示質問」：教師が答えを知っている質問）と言います。

研究では、先生がDQばかり行っている教室では、学生は文法や語彙に関する質問が多くなると指摘されています（「先生はどんな食べ物が好きですか」のような質問はしなくなるという意味です）。意味のあるやりとりのためには、RQも上手にちりばめていくことが重要です。何事もバランスが重要ですね。

（岩田一成）